



学校だより



2026年 5月29日
横浜市立港南台第一小学校
6月号



人の話を「聴く」ということ

校長 本多 響

先日、教室を回っていると、3年生の学習で「話のききかた」について考えている場面に出会いました。「話をきくときにうなずいている人がいるととてもいいよね。」「話をしている人の方を向いていると話している人も話しやすいよね。」など、話のきき方について話し合っていました。私が本当に感心していることは、朝会等も本校の子たちはこちらをきちんと向いて話をきいている姿です。本当に素敵だなと思っていました。

ご家庭でも「人の話をききなさい。」と言われ、学校でも「先生の話をおちゃんとききましょう。」と言われることが多い気がします。では「人の話をきく」の「きく」とはどのような意味があるのかを少し掘り下げてみました。「人の話をきく」の「きく」という文字を書くときにはいくつか漢字があります。主に「聞く」と「聴く」の2つが挙げられます。国語辞典によると、

① 「聞く」→音や声を耳に感じ認める意

② 「聴く」→聞こえるものの内容を理解しようと思って進んできく意

と書かれていました。「人の話をきく」ときの「きく」はどちらに当たるかは明確だと思いません。

「聴く」という漢字は分解すると、「耳+目心」になります。つまり人の話をきくときには聞こえるものの内容を理解しようと思って進んできくわけですから、耳だけでなく、目や心も使って話をききましょうねということなのかもしれません。

私は、もう少しこの「聴く」ということを掘り下げてみました。人の話をきくときに、耳だけでなく、目や心も使って話をきくというのは具体的にどうしたらよいかを考えてみたのです。特に「心を使って話をきく」というのは一体どういうことなのかが気になったので、自分の経験を振り返ってみました。結論としては「人の話を心できく」というのは「その人に興味をもつこと」なのではないかと思いました。人の話をきくとき、その人に興味があると、質問もたくさんしますし、共感することもできます。興味がなければ、その話は頭の中に入ってきません。私は今まで、妻や自分の子どもの話に興味をもって聴いたこともありましたが、興味をもたずに聴いた振りをしていたこともあったなあと反省しています。みなさんはどうですか。ご家庭で子どもの話に興味をもたずに生返事をしてしまったことはありませんか。私はありました。本当に反省です。

今回、人の話を聴くということを考える中で、話を聴くことの難しさも改めて感じましたし、子どもたちに「人の話を聴く」ことを指導するのであれば、自分自身も話を聴くこと＝相手に興味をもつことを実践しないといけないと感じました。

各クラスの学習の様子を見て回っていると、友達の話や先生の話に興味をもって聴いている子どもたちを見ることがあります。その子どもたちはうなずきながら聴いたり、「なるほど。」「そうなんだ。」と相槌をうったりして、本当に素晴らしい話の聴き方です。まさに心を使って話を聴いているのです。私はその子どもたちの素晴らしい話の聴き方を見て、自分もそういう聴き方ができないといけないなと改めて思いました。

